

NPO 法人 ふろんていあタウン工房

ふろたん通信

2021年9月11日 広報センター No. 40



先が見えないパンデミック！ という見出しで、新型コロナウイルス禍で外出自粛・イベント中止など自粛ムードが拡がりふろたんメンバーも多くが在宅勤務にない交流がままならない中での発信になったと伝えたのが **2020年4月22日付の通信35号**で最初の緊急事態宣言の時、**7月27日付の通信36号**は、延び延びになっていたふろたん工房総会が**7月9日にやっと開催**になり、あと半年しか残されていない異例の令和2年度がスタートですとかいて総会の報告を載せました。翌**2021年1月18日付の通信37号**は正月7日の1都3県緊急事態宣言を伝え、**4月25日付の通信38号**は3度目の緊急事態宣言スタートの日の発信になり、**その後もコロナ禍の自粛ムードはさらに拡がり2021年は総会開催もままならない状態が続いています。**

◆2021年7月20日 ふろたん工房 2021年度情報交換会

7月7日付で**ふろたん通信号外**を発信し、今年は総会に代わる情報交換会を行うことにし都合のつく方はどなたでもと呼びかけました。

○日時；7月20日（火） 午後4時～

○会場；URリンケージ会議室（東陽2-4-24 サスセンター）

役員人選で今年継続になっているのは三田村事務局長・西原事務局長・森田技術研究所長・宮本渉外担当役・濱崎監事、改選時期を迎えたのは室井理事長・赤川副理事長・森下プロジェクト推進室長・山本広報センター長、改選時期の4名についてはすべて再任し、引き続きNPO団体仲間との情報交換・交流を図って活動を続けていくことになりました。（出席者；三田村・西原・濱崎・室井・赤川・森下）

◆最初の緊急事態宣言が出る前のふろたん工房はどんな活動をしていましたか？

2020年2月18日付の通信34号を覗いて思い出してみましょう！

通信34号は1月17日の新春インタビューと二つの研究会紹介の記事で構成されています。

2014年12月にスタートしたふろたんインタビューも既に第11回で「ミャンマーとの絆」と云うテーマで今泉清詞さんとティティレイさんのお二人から今泉記念ビルマ奨学会の話をお伺いしました。オリンピック・パラリンピックの1年延期が決まった2020年3月の直前に発信した通信、鶴ヶ島市がミャンマー選手団のホストタウンになったことなども話題にしていました。

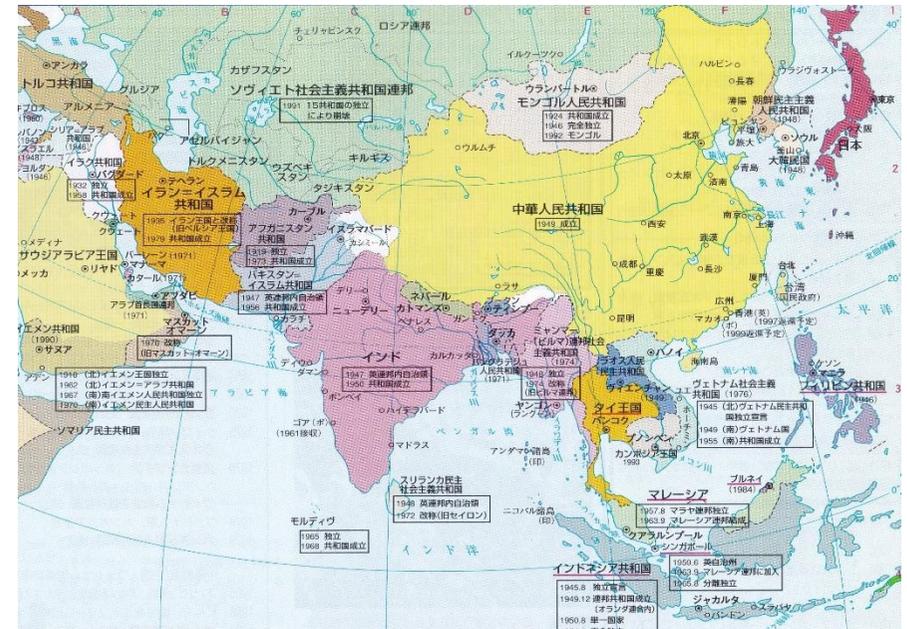


もう一つの記事二つの研究会「二都研」と「創生研」の紹介では、2012年3月のミャンマーの建設省視察団の来日がきっかけになって誕生した「二都物語研究会」通称「二都研」は、URリンケージ・入江三宅設計事務所・開発構想研究所・URJICAチームの4社持ち回りで取り組み今迄第39回まで行っています。2017年4月19日の第26回は幹事入江三宅で、芝浦工大名誉教授の松下潤さんに「資源循環型の持続可能な経済成長を目指す」というテーマで講演頂きました。松下さんにはその後もアドバイスを頂いていましたが、2021年3月31日ご逝去されました。ご冥福をお祈りいたします。



「創生研」は2011年3月の東日本大震災で東北の被災地で復興計画づくりに取り組んでいた都市計画コンサルタントの有志が集まり立ち上げた「復興都市研究会」2017年度末まで通算すると34回の研究会を行い「復興まちづくりレポート2017」を纏めています。2018年度からは今迄の復興都市での取り組みを広く国土計画に役立てようと「復興都市研」改め「創生研」という名称にし、スタート時から事務局昭和(株)で研究会活動を継続しています。

◆コロナ禍の自粛ムードの中での総会に代わる情報交換会の報告号として発信しようとして準備していた通信40号、1年延期のオリ・パラも終わりに近づき通信の原稿を書いていた時、衝撃的な報道が飛び込んできました。イスラム原理主義勢力タリバンのアフガニスタンの首都カブール制圧です。この通信40号の発信日の9月11日は20年前の2001年に米同時多発テロがあった日、その時からアメリカとイスラムの対立が始まります。



ミャンマー軍事クーデターに続く東南アジアでの分断、自粛ムードが暫く続きそうですが、めげずに元気に過ごしましょう！